

令和6年度 研究・研修推進計画

I 運営の方針

- 1 学校教育目標の具現化に向け、学校経営方針に基づき、教育理論、指導内容、指導方法等の共通理解及び研究を進める。
- 2 理論と教育実践の一体化を目指し、教師の指導力や専門性を高める。
- 3 研究主題に関連させながら外国語活動・外国語科の授業研究会を設定し、指導力向上を目指す。

II 運営の重点

- 1 外国語活動・外国語科における指導方法について検討する。
- 2 外国語による言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成する。
- 3 学習指導要領に基づいた教科の授業実践を進める。
- 4 全国学力・学習状況調査や県学習定着度調査、CRTの結果を分析し、授業改善を図り、児童の学力向上を目指す。

III 具体的な運営

1 主題研究

- (1) 相手意識をもって主体的にコミュニケーションを図ろうとする児童を育成するための児童の在り方はどうあればよいか授業づくりを通して探る。
- (2) 全職員が外国語部会、特別支援部会のいずれかに所属し、年間を通して全体会または学団会を中心とした授業研究を行う。

2 研修

(1) 基本研修

- ア 授業力向上研修
- イ 経年研修

(2) 校外研修

- ア 教育事務所研修
- イ 総合教育センター研修講座・研究発表会
- ウ 公開研究会
- エ 町内小学校授業研究会への参加

(3) 校内研修

- ア 学力向上対策研修会（学力向上担当が企画・運営）
- イ 生徒指導研修会（生徒指導部が企画・運営）
- ウ 特別支援教育研修会（特別支援コーディネーターが企画・運営）

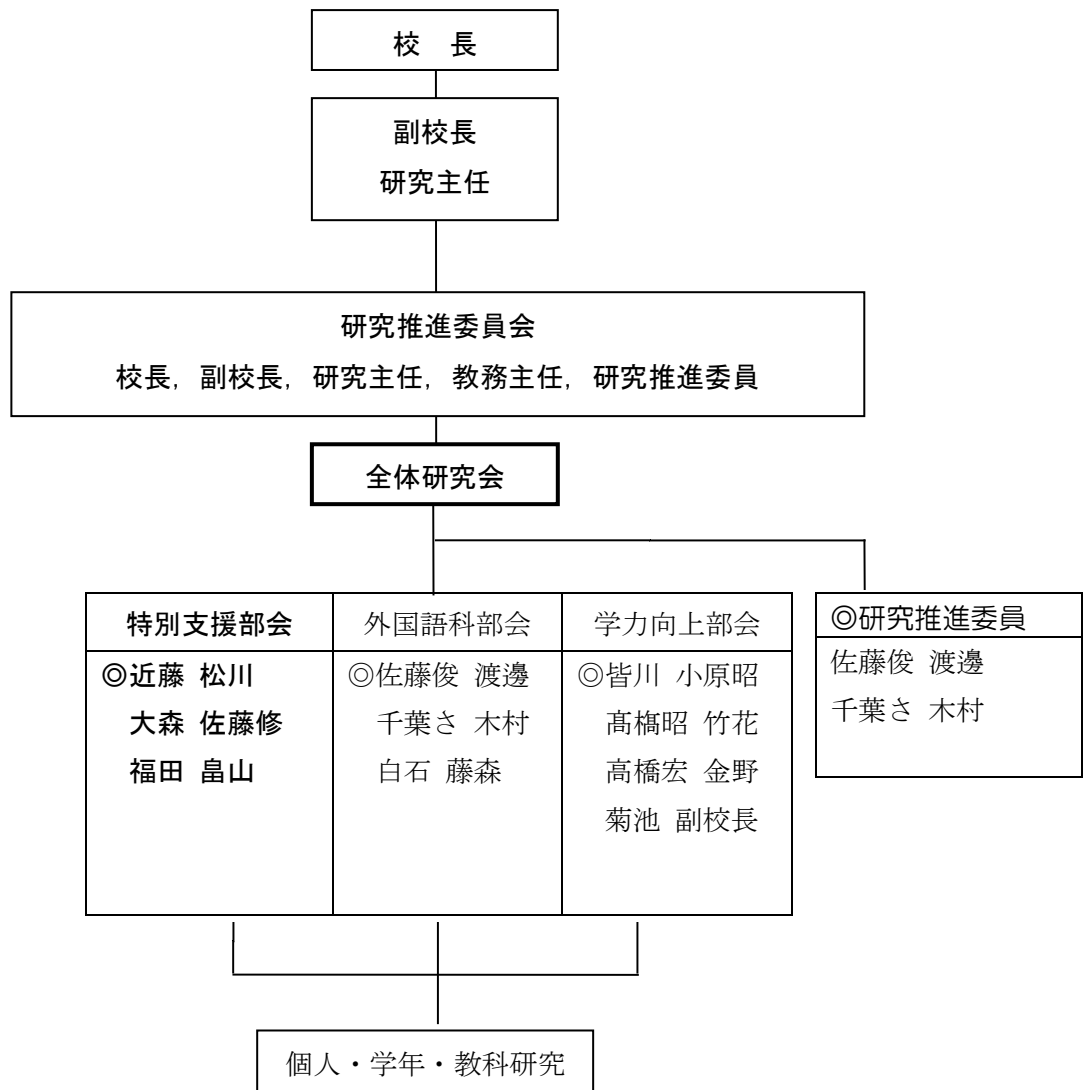
3 その他

(1) 家庭学習の推進

- ア 授業と家庭学習の連動
- イ 家庭学習強化週間…年2回（6・11月）

IV 研究・研修の組織及び運営

1 研究・研修の組織



※低学年は、外国語活動、外国語科のいずれかの部会に所属する。

2 組織の運営

(1) 研究推進委員会

研究全体の方向性を協議する。

(2) 全体研究会

研究計画，授業分析・検討，調査分析等の内容に関する討議や共通理解，理論研究を行う。

(3) 各部会研究会

ア 研究主題を受けた各部会の研究協議，研究推進における全体的な調整等を行う。

イ 授業研究会に向けた教材分析，指導案検討，事前授業研究会を行う。

V 主題研究計画

1 研究主題

自分の思いや考えを伝え合うことができる児童の育成 ～「学びをつなぐ」授業づくりを通して～

2 主題設定の理由

(1) 今日の研究課題から

学習指導要領では、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地や基礎となる資質・能力を育成することが目標として設定されている。コミュニケーション能力とは、「いろいろな価値観や背景をもつ人々による集団において、相互関係を深め、共感しながら、人間関係やチームワークを形成し、正解のない課題や経験したことのない問題について、対話をして情報を共有し、自ら深く考え、相互に考えを伝え、深め合いつつ、合意形成・課題解決する能力」とある。また、コミュニケーション能力は、話す・聞く・書く・読むといった言語活動のほか、非言語による手段（イメージ、音、身体）も含めた広範な活動に関わるものであり、向上させるためには、言語能力のほか非言語能力の向上も必要である。これを踏まえ、非言語による手段も活用させながら、言語で自分の考えや気持ちを的確に伝え合うことができる力を身に付けさせていくことが大切であると考え。

(2) 学校教育目標から

本校の教育目標は、「よく考える子」、「心の豊かな子」、「健康で明るい子」である。主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善を推進することによって、「よく考える子」で目指す姿の「話をよく聞き、自分の思いや考えを進んで表現する子」「互いの考えを聞き合い、工夫しながら学習する子」を育成できる1つの手立てになると考える。また児童は、他者との協働や相互作用を通して学びを深めていく。これは、「心の豊かな子」で目指す姿の「人を大切に思い、思いやりをもって助け合い、励まし合う子」に合致するものである。さらに、粘り強く問題解決に挑むことは、「健康で明るい子」で目指す姿の「夢（目標）に向かって粘り強く取り組む子」に通じることである。

(3) 児童の実態から

本校の児童は、幼少期から英語の表現に慣れ親しんでおり、意欲的に楽しく活動や学習に取り組んでいる。抵抗なく英語を使って表現することができる反面、既習事項を用いたり相手意識や目的意識をもって活動に臨んだり、自分の考えや思いを伝え合う楽しさを実感する児童は少ない。このような現状から、外国語を用いて児童が互いの考えや思いを十分に伝え合うことができる授業改善を推進する必要がある。

そこで、相手意識をもって主体的にコミュニケーションを図ろうとする児童を育成するための授業づくりについて探っていきたいと考える。

3 研究の目標

相手意識や目的意識をもって主体的にコミュニケーションを図ろうとする児童を育成するための指導の在り方はどうあればよいか授業づくりを通して探る。

4 研究の仮説

外国語活動・外国語科の指導において、以下のような手立てを行うことにより、研究主題に迫ることができるであろう。

【手立て1】 必然性のある言語活動の設定

【手立て2】 自分の思いや考えを伝え合う活動の工夫

【手立て3】 ICTの積極的な活用

5 研究の内容

(1) 理論研究

外国語活動・外国語科の指導についての理論研究

(2) 調査研究

実態調査の実施、結果の分析と考察

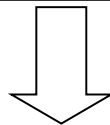
(3) 実践研究

外国語活動・外国語科の研究授業と考察

6 めざす児童像

【本校のめざす児童像】

- 見通しをもち、自分から進んで学習する子
- 話をよく聞き、自分の思いや考えを進んで表現する子
- お互いの考えを聞き合い、工夫しながら学習する子



【研究を通してめざす児童像】

- 外国語で自分の考えや思いを伝えられる子
- 相手の思いを理解し、相手の話を受け止めながら聞くことができる子

7 研究の具体的な考え方

(1) 主題・副題について

「自分の考えや思いを伝え合う」とは

- これまでに学習してきた表現を活かしながら、相手の話を聞いたり伝えようしたりとすること
- 仲間（相手）とのコミュニケーションのなかで互いのよさを活かし、表現を高め合おうとすること

「学びをつなぐ」とは

- 「これまでの学びを活かす」こと
授業の中で、これまでの学びで得た知識や技能、培ってきた見方・考え方を働かせること
- 「仲間（相手）の考えを活かす」こと
仲間（相手）の様々な見方・考え方に触れ、自分の見方・考え方を見つめ直し、さらによくすること
- 『「教師⇔児童」「児童⇔児童」』の学びをつなぐこと
考えや価値観の違う他者に対し、何を伝えるのか、何を話し合うのか、教師は学びを双方向につなげながら、考えを深めること

(2) 仮説について

【手立て1】必然性のある言語活動の設定

目的意識や相手意識をもって仲間とコミュニケーションを図るなかで、表現を高めることができるような言語活動を設定するために、以下のことを行う。

- 児童の意欲を高める単元ゴールの設定（パフォーマンステストの設定）
- 単元の評価規準に基づいたバックワードデザインでの授業構想（CAN-DO リスト・形式での学習到達目標の設定）
- 目的・場面・状況を意識した言語活動の設定
- Small talk を中心とした場面設定（既習事項、知識・技能の活用）

【手立て2】自分の考えや思いを伝え合う活動の工夫

言語活動のなかで、相手にうまく伝えられなかったことを仲間と共有し、既習事項の語句や表現と結び付けて、表現を再構築できるようにするために、以下のことを行う。

- 表現力を高める工夫（言語活動→中間指導→言語活動の流れの確立）
※中間指導→内容面・言語面・表現等についての指導
- 資質の能力を高める声掛けの工夫

【手立て3】ICTの積極的な活用

デジタル教科書やICT機器を積極的に活用することで、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的実現及び指導と評価の充実を図るために、以下のことを行う。

- 言語活動での知識・理解の習得にデジタル教科書を使用
- Reflection でのICTの活用
- 歌やチャンツなどデジタル教科書の週末課題での使用

8 特別支援学級における指導について

特別支援学級における研究は、「分かりやすさのしかけ」を基本とした指導を中心とし、個に応じた指導の在り方の研究を進めるものとする。

9 基盤となる取組

- (1) 問題解決型学習過程の実践（P9参照）
 - ①「いわての授業づくり3つの視点」の確実な実施と評価
 - ②思考力・判断力・表現力を育む言語活動の充実
- (2) 見通しと関連した振り返り（P10参照）
- (3) 構造的な板書とノート指導（P12参照）
- (4) 「分かりやすさのしかけ」の実践（P13参照）
- (5) 個に応じた指導の工夫・充実（TT，少人数学習等）
- (6) 四則計算の確実な定着
- (7) 児童の実態把握→補充指導→単元計画を立案
- (8) 授業と連動した家庭学習の充実
- (9) ユニバーサルデザインによる教室環境づくり
- (10) 学力の基盤としての言語力の育成
 - ア 書籍の有効な活用
 - イ 音読の充実

10 検証計画

- (1) 参観シートを活用した授業観察を行い，授業改善と協議の活性化を図り，研究主題に迫る。
- (2) 仮説に沿って研究協議をし，成果と課題を明らかにする。
- (3) 児童の関心や意欲を調査する。（アンケート等）
- (4) CRT等各種調査による数値による検証を行い，指導改善に役立てる。

11 教科研究

- (1) 施設，設備，教材・教具の整理をし，活用する。
- (2) 研究推進及び教科指導等に関する教育資料・図書資料等の購入計画を立てる。
- (3) 校外研修に関する資料を収集し，活用する。
- (4) 教科担当

国語	藤森	社会	竹花	算数	高橋宏
理科	大森	生活	高橋昭	音楽	白石
図工	畠山	家庭	金野	体育	千葉
道徳	松川	特活	渡邊 菊池	特別 支援	近藤 佐藤 福田
外国語	木村	総合	皆川		

年間計画

回	月日	曜	種 類	研究・研修内容	備 考
1	4/3	水	全体研	今年度研究計画	
2	4/9	火	全体研	主題研究について（外国語活動・外国語科）	
3	5/23	木	全体研	研究授業①4年	
5	6/7	金	全体研	研究授業②6年	
6	6/20	木	全体研	研究授業③3年	
7	6/27	木	全体研	研究授業④5年	
8	7/4	木	全体研	研究授業⑤1・2年	
9	7/26	金	全体研	生徒指導研修会① （事例研究会・QUテストの結果分析）	生徒指導部
10	8/19	月	全体研	学力向上対策研修会	
11	9/12	木	全体研	指導案検討会または研究授業	
12	9/26	木	全体研	県外研大会に関わって①	
13	10/3	木	全体研	県外研大会に関わって②	
	10/9	木	学校公開	県小学校教育研究会外国語部会大会	
14	12/3	火	全体研	特別支援学級授業参観（ことば含む） 特別支援研修会	特別支援 Co 企画・運営
15	12/23	月	全体研	今年度の研究反省アンケート	
16	1/23	木	全体研	今年度の研究反省	
17	2/27	木	全体研	来年度研究計画	

○「一人一授業」を基本に計画する。

○研究授業を行うクラスの同学年の別のクラスが事前研（学団研）を行う。その際、指導案は研究授業を行うクラスと同じで可。

○特別支援学級は、同日に6学級すべての授業参観を行う。（2時間設定）

○伝講

- ・職員会議や校内研、職員朝会等を利用して短時間で行う。（新たに資料を作成する必要はなし。）
- ・先生方に資料を回覧する。ぜひ先生方に周知したい内容は印刷して配付する。